

Kanagawa Times

【かながわタイムズ】



No.53

2009年8月1日発行

www.fukuda-norihiko.com



神奈川県議会議員

福田 紀彦

2009 公約中間報告

公約の 進捗状況の報告は どんな意味を 持っているのか?

前回の神奈川県議会議員選挙から2年。
任期4年のちょうど半分を折り返すことになった現在。
2年前の選挙の時に掲げた福田紀彦の公約の進捗状況を、
今回のKanagawa Times2面、3面で中間報告をしたいと思います。

政治家も、選挙時に掲げた公約に対しておざなりでは、政策本位の政治は絶対につくれない、そう考えます。

さて今回の公約の進捗状況の中間報告では、福田紀彦がどのように取り組んだのか、そしてその結果何がどのように変

大変な尽力を頂きました。

また、学術機関の評価と同時に、実際の住民視点からの評価が重要なことから、本紙Kanagawa Timesの編集委員にも評価をお願いしました。

ぜひ、進捗の中間報告をご覧いただき、有権者のおひとりお一人からのご評価をいただければ誠に幸いに存じます。

CAUTION 中間報告に当たって

●なお、紙面の都合上、それぞれの項目や評価について簡略化して記載しております。特に第三者評価については、福田紀彦のホームページで詳しく掲載しておりますので、こちらも併せてご覧いただければ幸いです。
●掲げた公約は、“マニフェスト”の要件である、時期、財源、達成方法についての記述をしていません。そのためマニフェストという表記ではなく、“公約”としています。予算編成権や執行権を持つ自治体の長(知事や市長)と議員が示す公約には権限の違いによる制約があるためであることをご理解下さい。現在、私の発案により、これらの制約を軽減するために、議員個人の公約とは別に民主党会派としてのマニフェストづくりに向けた取り組みを開始しています。

今年で県議会議員の議席をお預かりして7年目になります。前の1期4年間の取り組みについても、どのように取り組み、そしてその取り組みによって何がどのように変わったのかを、レポートや私のホームページで詳細に発表してきました。

こうした出来る限り具体的な公約を掲げ、実行し、そして検証されることは、いわゆる旧態依然とした“お任せ政治”の文化に大きな変化を求める方策として大いに効果をもたらすものだと考えてい

ます。

有権者である皆さんが“参加し、ともにつくる政治”にしていくために、こうして政治家側から常に正しい情報を発信し、逆に有権者が積極的にチェックしていく、こうすることで双方が建設的で緊張感のある関係を築くことを今後の日本をよりよくするために作り上げていかなければなりません。

公約は議会で議論する政策のごく一部でしかありません。ただ、選挙が終われば選んだ側の有権者も、選ばれた側の政

変わったのかということに加え、第三者評価を盛り込むことにしました。

この第三者評価には、北川正恭教授(早稲田大学マニフェスト研究所所長・前三重県知事)の研究所に評価を依頼しました。北川教授は私が実行委員長をつとめる“マニフェスト大賞”の審査委員長でもあり、日本版“マニフェスト”の生みの親とも言うべき人物です。個人の公約評価については非常に難しい点があるのですが、研究所には県議会などの議事録や各種資料のチェック、ヒアリングなど

※全国の地方自治体の首長、議員がマニフェストという道具を使って政治や行政を変えようとマニフェストの成果や政策のアイデアを競い合う“地方政治のアカデミー賞”。昨年は971件の応募があり、首長部門は浜松市長、議会は三重県議会が受賞。


福田紀彦の公約中間報告 公約、取り組み、そしてどう変わったのか?

	公約【平成19年4月発表】	取り組み【この2年間の福田紀彦・会派の取り組み】
1 教育刷新 	<p>情報や施設をオープンにし、みんなで守り、育てる学校に。地域運営学校（コミュニティスクール）の推進、基礎学力の向上で公立学校を再生。</p> <p>1) いじめ、不登校、校内暴力等、いずれも高止まり、または増加傾向にあります。問題は、いじめを見過ごし、認知しても対応出来ていないことにあります。発生件数の問題ではなく、認知して解決させる数が重要です。子供たちのコミュニケーション能力を向上させる教育を行って未然防止に努めます。補習授業や少人数教育などに力を入れてまいります。学習の定着度をしっかり測って指導に反映させる仕組みを作ってまいります。</p> <p>2) 小中の連携、中高の連携を深めて、一貫した学習指導を行うことによって理解しないまま進級することを防ぎ、確かな学力を身につけることを提案してまいります。</p>	<p>⇒子供たちのコミュニケーション能力の低下による、いじめ、不登校などを取り上げ、施策推進を迫る（H19年6・9月定例会）</p> <p>⇒「ゆとり教育」を廃し、県内公立学校における学力向上のための授業改善などを提案（H19年12月定例会）</p> <p>⇒地域運営学校型の県立高校（クリエイティブスクール）について地域との連携について取り上げる（H20年12月定例会）</p> <p>会派としての予算・施策要望</p> <p>○不登校、いじめについて施策を総点検し、未然防止と問題解決。</p> <p>○スクールカウンセラーに関しては、配置時間の見直しを行う等、運営方法の改善を図り教育相談体制の充実を行う</p>
2 安全・安心 	<p>自主防犯グループの継続的な活動をサポート。警察との連携強化で犯罪発生を抑止。</p> <p>1) 県民の皆さんが団体を立ち上げて活動していただくことは重要ですが、数とともに、質的な向上を目指していく中で、継続的な活動として定着していくことが重要です。警察や学校などとの情報連携なども含めて支援、専門的な警察力とともに、地域の団結力で犯罪発生を抑止します。</p> <p>2) 防災については市町村域、都道府県域を越えた広域的な連携の一層の充実に努めてまいります。</p>	<p>⇒福田が県議会で初めて「犯罪被害者支援」について取り上げ（H17年2月定例会）以降一貫して民主党として取り上げ条例の制定につながる。</p> <p>⇒犯罪被害者支援について取り上げ、支援方策と条例制定への後押し（H19年6月定例会）</p> <p>⇒警察官のスキルアップ、装備機材について取り上げる（H19年6月定例会）</p> <p>⇒暴力団対策について（H19年9月定例会）</p> <p>⇒災害時における事業継続計画について取り上げ、県行政の事業継続計画の策定につながる</p>
3 がん対策 	<p>がんにならない、負けないために、検診率のアップを推進。県立がんセンターの機能強化と地域医療との連携を推進。</p> <p>1) がん検診の検診率は各市町村の財政力などによって大きなバラつきが生じています。県と患者の会やNPOなども協力し検診率のアップに努めます。</p> <p>2) 県内唯一の都道府県がん診療連携拠点病院として「神奈川県立がんセンター」の機能の充実をしていきます。</p> <p>3) 大学病院、市民病院等の地域がん診療拠点病院との連携を充実させることによって県内どこにおいても最適な治療が行われる環境を整えてまいります。</p>	<p>⇒福田が乳がん検診を啓発するピンクリボン運動（J-POSH）と県を仲介し、団体よりマンモグラフィを搭載した検診バスを寄贈していただく。H21年度から本格運用を開始し、県内の検診率アップへ。</p> <p>⇒「神奈川県がん克服条例」を議員提案として成立させる。（H20年2月定例会）総合的ながん対策の推進を目的に、県、保健医療機関、県民の責務を明記し、がんの予防、早期発見の推進、患者の支援などを定めた。</p> <p>⇒県立がんセンターの再整備について繰り返し取り上げる（H19年9月定例会、H20年2月定例会）</p> <p>⇒検診率アップのため、県・市町村と共通の数値目標の設定に取り組む</p> <p>会派としての予算・施策要望</p> <p>○県内のがん医療従事者への研修の充実。</p> <p>○県臨床研究所を中心として産学公の連携で患者に負担の少ないがん医療の構築。</p>
4 環境立県 	<p>新エネルギーの導入促進策。CO₂の排出抑制の広域的な取組みを推進。</p> <p>1) 日本政府が京都議定書に約束したのは1990年比からさらに-6%のCO₂排出の抑制です。神奈川県の数値で見ると、平成16年のデータで1990年比から+9.9%と減るどころか増えています。産業界はもちろん、伸びが著しい家庭やオフィスからの抑制が必須です。市町村やNPOなどとの協働した取組みをし、環境保全の実践キャンペーン（マイアジェンダ）の更なる推進に努めます。</p> <p>2) わかりやすく、簡単にできることを企業、家庭、行政が取組める仕組みを提案します。</p> <p>3) 松沢知事の提案する電気自動車の具体的な普及戦略を提案してまいります。</p>	<p>⇒実践キャンペーン（マイアジェンダ）を福田の提案はノーベル平和賞受賞者のマータイ女史が提唱する“もったいない運動”と連携し「もったいない」ヴァージョンを作成し、登録者数が増えている。</p> <p>⇒電気自動車の普及戦略について提案する（H19年6月、H20年6月）</p> <p>⇒地球温暖化対策推進条例について取り上げる（H19年12月、H20年9月、H20年12月）</p> <p>⇒NOレジ袋、NO白熱球プロジェクトについて取り上げ、推進を迫る。（H20年2月）</p> <p>⇒神奈川版グリーン・ニューディールについて提案した。（H21年2月）</p>
5 しごと応援 	<p>高齢者の雇用や、職場での子育て支援を提供する事業者を増やすための促進策を導入。</p> <p>1) 再就職の促進や中小企業の人材確保対策につとめるとともに、中高年の一層の雇用促進に向けて、助成制度の改善を提案します。</p> <p>2) 若者就職支援センターの更なる効果的な活用、職業観を養う教育に力を入れます。</p> <p>3) 県内企業が独自で行う子育て支援が進むように税の活用を含めた促進策を提案します。</p>	<p>⇒職業訓練の取組みとその後の就職支援について対応を質す。（H20年9月定例会）</p> <p>⇒雇用の悩み・問題に対して積極的な対応を迫る。（H20年9月定例会）</p> <p>⇒産業を支える技術・技能の継承に向けた取組みについて。（H20年9月定例会）</p> <p>会派としての予算・施策要望</p> <p>○仕事と子育てとの両立支援を強化する。</p> <p>○人材育成支援ネットワーク事業の中小企業への周知を推進し、拡大をはかること。</p> <p>○生活安定、技能継承の観点から65歳までの雇用確保を更に推進する。</p> <p>○若者のキャリア教育を強化し、職業感の醸成手法の開発や能力開発、職業訓練機会の充実に取り組む。</p>
6 道州制 	<p>県の仕事を広域的なものに絞り込み、市町村への更なる権限、財源を移譲。</p> <p>1) 道州制を見据えて、一層の市町村への権限、財源移譲を進めるとともに、今後の県内市町村合併を推進して自立・自活のできる市町村を当該市町村と協力して作り上げ、県の発展的解消から新しい広域行政のかたち、国のかたちである道州制に向けて議会で、今後も発言します。</p>	<p>⇒福田は神奈川県市町村合併推進審議会の委員を務め、合併への諸条件を整える。</p> <p>⇒分権改革を進めるにあたり、重点をどこに置くのか迫る。（H20年2月定例会）</p> <p>⇒地方自治体の自主自立性を強化するための取組みについて質す。（H20年2月定例会）</p> <p>⇒権限委譲に向けた市町村合併と県の取組の方向性を迫る（H20年2月定例会）</p> <p>会派としての予算・施策要望</p> <p>○国の出先機関の抜本的見直し、広域行政課題や、地方税財政制度の構築に向けた大幅な税源移譲は近隣自治体などとの連携を一層強化し、国に強く働きかける。</p> <p>○地方分権について県民の関心を高め、理解を深めるための取組みを進める。</p>
7 議会改革 	<p>議会の公開性・透明性を高めていくため、遅れている議会の情報公開を推進、政務調査費の使途の明確化・公開の制度化。</p> <p>1) 遅れている議会の情報公開を推進します。</p> <p>2) 政務調査費についても、公開性・透明性を高めるためのルールづくり、条例化を目指します。</p> <p>3) 県議会の調査、立法機能を高め、行政のチェックのみならず、県民ニーズに沿った議員提出条例を積極的に提案します。</p> <p>4) 福田紀彦の政治資金、選挙資金などはホームページ上で公開します。</p>	<p>⇒会派を代表して、「議会改革検討会議」の委員となり、政務調査費の透明性、公開性の確保について繰り返し主張し、1円公開に結びつく。</p> <p>⇒「議会基本条例調査特別委員会」の委員として議会改革の礎となる議会基本条例の作成、制定に係る。</p> <p>⇒前期の「民間交番設置推進条例（案）」の提案に続き、議員発議の条例提案をするべく、民主党会派内に「政策法務学校」を立ち上げた。現在、4つのテーマで条例提案に向け、鋭意作業中。</p> <p>⇒福田紀彦の政治資金、選挙資金についてはホームページにて公開している。</p>

福田紀彦の公約に対する第三者評価

第三者評価の講評の詳細は、
福田紀彦のホームページでご覧いただけます。

<p>どのように変わったのか?</p> <ul style="list-style-type: none"> ●公約時 H18年：県内公立小中高のいじめ総数3963件／解消率72.4% →H19年(最新)：3047件／解消率73.4% ●公約時 H18年 県内のコミュニティスクール指定校：県内2校。 →H20年4月現在：県内7校+地域運営学校型の県立高校3校 ●基礎学力の定着を計る「県立学習状況調査」に取り組む県立学校数 公約時H18年 参加校 約15% →H19年 50% →H20年 100% ●全国学力・学習状況調査の結果を受けて、「県検証改善会議」を設置し、学校の改善につとめる体制を整備 ●県立中高一貫学校を新設 H22年度 開校
<ul style="list-style-type: none"> ●公約時 H18年：自主防犯組織 1009団体→H20年：1797団体 ●自主防犯組織への団体助成金 受給団体総数 公約時 H18年度：285団体→H20年度：547団体 ●県内の刑法犯の認知件数 H18年12万2703件→H20年：11万3571件 ●「犯罪被害者支援条例」が成立(H21.2月定例会) 県・警察・民間による総合サポートセンターが開設
<ul style="list-style-type: none"> ●がん検診の検診率 H16年(公約時の最新値)とH18年(現在の最新値)との比較 胃がん7.7%→6.8%▼ 肺がん15.7%→14.9%▼ 大腸がん14%→13.1%▼ 子宮がん11.7%→17.2%▲ 乳がん7.8%→8.5%▲ ●県立がんセンターの建て替え、総合整備方針を決める。入院需要に応えるため現在の1.5倍に、手術室や外来診察室を約1.8倍アップする計画に。 ●最先端治療である重粒子線治療装置の導入を決定。 ●公約時の地域がん診療拠点病院の数 県内5病院→12病院(平成21年4月現在) 例：川崎市北部=聖マリアンナ医科大学病院 ●議員提案により「神奈川県がん克服条例」が制定された。
<ul style="list-style-type: none"> ●県内のCO₂の排出 2005年7,570万t→2007年速報値7,857万t 90年比7.8%アップ→11.9%アップ ●地球温暖化対策条例を現在、県議会で審議中 ●環境保全実践キャンペーン(マイアジェンダ)登録数 公約時：H19年3月 個人：47,819人 法人/団体 6,511団体 現在：H21年4月 個人：66,207人 法人/団体 9,578団体 ●電気自動車のプロジェクトが始まる。 2014年までに県内の電気自動車の3,000台普及を目指す
<ul style="list-style-type: none"> ●神奈川県子ども・子育て支援推進条例が成立。(H19年10月から施行) ●H21年度から、中小企業が行う事業所内保育施設に対する助成金制度を開始しました。(最大1000万円)。 ●県の「子育て応援団」に認証された県内企業には、県の制度融資への金利の優遇を開始。 県発注工事への入札へも加点。 「子育て応援団」の認証企業数 H19年度31企業→H20年度109企業 ●県立高校のインターンシップ実施率 H17年度90校(全県立高校の59.2%)→H20年度141校(96.6%) ●神奈川県若者就職支援センターを介しての就職につながった人数 H18年度720人→H20年度883人 ●シニア・ジョブスタイル神奈川(高齢者進路支援)からの進路決定 H18年13人→H20年182人
<ul style="list-style-type: none"> ●神奈川県から市町村へ移譲した権限数(累積) H18年度955件→H20年度1,112件 ☆現在想定される移譲事務権限のうち残すところ、103件のみ ●H19年7月に「地域主権実現のための基本方針」を策定し、市町村の基盤強化への支援や道州制への移行に向けた今後の取り組みを明記
<ul style="list-style-type: none"> ●H19年6月「議会改革検討会議」を設置。 ●H20年2月 議会基本条例等調査特別委員会を設置。 ●H20年2月「議会改革検討会議」において、政務調査費の1円から領収書添付、公開を決定。 ●H20年12月、「議会基本条例」を制定。

<p>第三者評価 Part. ①</p> <p>早稲田大マニフェスト研究所</p> <p>成果、提言や一般質問など議会活動に重点を置き評価 成果：30点満点 取り組み：70点満点(取り組みの配点内訳は、議員として40点・会派として30点)</p>  <p>マニフェストの生みの親、北川正恭教授(左)</p>	<p>第三者評価 Part. ②</p> <p>カナタイ編集部</p> <p>住民要望・説明責任といった住民の実感に重きを置き評価 5点：非常に評価ができる 4点：評価できる 3点：多少評価できる 2点：あまり評価できない 1点：全く評価できない</p>
<p>① 100点 満点</p>	<p>② 5点 満点</p>
<p>1 教育刷新</p>	
<p>【評価】 76点</p> <p>【内訳】 成果点 18/30点 議員評価点 36/40点 会派評価点 22/30点</p> <p>【講評】 議員・会派としてコミュニティスクールの設置を推進中。政策によるいじめ・不登校減少の成果に期待。</p>	<p>【評価】 3点</p> <p>【講評】 様々な角度から教育刷新に向けた施策を実行中。ただ、始まったばかりで多少の成果は表れているが、何とも言えない。今後はより大胆な教育改革に期待。</p>
<p>2 安全・安心</p>	
<p>【評価】 80点</p> <p>【内訳】 成果点 30/30点 議員評価点 34/40点 会派評価点 16/30点</p> <p>【講評】 知事と議会の政治的リーダーシップで県内犯罪件数は確実に減少へ。自主防犯組織は飛躍的に増加。</p>	<p>【評価】 2.5点</p> <p>【講評】 福田議員が尽力した県独自の条例や数字的な成果は表れているものの、安全・安心は県民の願いであり、さらにキメ細かな施策に取り組んでもらいたい。今後の取り組みに注目である。</p>
<p>3 がん対策</p>	
<p>【評価】 88点</p> <p>【内訳】 成果点 18/30点 議員評価点 40/40点 会派評価点 30/30点</p> <p>【講評】 福田議員の議会内外の活動で神奈川県のがん対策が大きく推進。県議会ではがん克服条例を制定。</p>	<p>【評価】 4点</p> <p>【講評】 がん検診率を除いては、検診バス導入や県独自の条例などの施策により、がん対策の成果が表れている。特に福田議員の議会内外の活動は評価に値する。</p>
<p>4 環境立県</p>	
<p>【評価】 82点</p> <p>【内訳】 成果点 24/30点 議員評価点 40/40点 会派評価点 18/30点</p> <p>【講評】 継続的な議会活動で県独自の環境対策が始動。温暖化対策先進県へ「待ったなし」の取り組みを期待。</p>	<p>【評価】 3.5点</p> <p>【講評】 環境対策についての下地は、福田議員提案のマイアジェンダや県独自の条例に見られるように整いつつある。今後2年間の取り組みが県の今後を左右する。県民・県との協働施策に期待。</p>
<p>5 しごと応援</p>	
<p>【評価】 82点</p> <p>【内訳】 成果点 24/30点 議員評価点 36/40点 会派評価点 22/30点</p> <p>【講評】 子育て世代の代表者として、仕事と子育ての両立策を議員の立場から提案中。補助制度のフル活用と抜本的な解決策の検討で今後の成果が問われる。</p>	<p>【評価】 3点</p> <p>【講評】 制度的な環境は整いつつある。今後は多くの導入・利用してもらうための方策、この未曾有の経済危機を乗り越えるための施策が課題。</p>
<p>6 道州制</p>	
<p>【評価】 82点</p> <p>【内訳】 成果点 18/30点 議員評価点 38/40点 会派評価点 26/30点</p> <p>【講評】 自立した真の分権社会に向けて、国からの自立、県から市への権限移譲、市民への説明責任を三位一体で取り組んでいる。県議として県内市町村の権限強化に寄与している。</p>	<p>【評価】 3点</p> <p>【講評】 権限委譲も積極的に行い、委員としての取り組みも前向き。今後は県民に対し道州制について、いかに理解してもらうかが課題。基礎自治体としての権限強化に寄与している。</p>
<p>7 議会改革</p>	
<p>【評価】 98点</p> <p>【内訳】 成果点 30/30点 議員評価点 40/40点 会派評価点 28/30点</p> <p>【講評】 紛れもなく全国でトップクラスの「議会改革者」。まさにローメーカーたる政治姿勢と取り組みに高い評価。常に改革する議会として、永続性の担保が問われる。</p>	<p>【評価】 5点</p> <p>【講評】 福田議員自身の政治資金公開や政務調査費1円公開などを実現。また政策力を鍛えるための施策(政策法務ロースクール)に尽力。取組みに非常に熱心で、議会を政策本位に変えようとしている。</p>

政治資金報告



よく“政治にはお金がかかる”と言われる。しかし、有権者の皆様にとっては、果たして何にお金がかかっているのか、またそのお金はどこから調達し、何に使ったのか非常に見えにくいというのが現状です。こうした不透明さが、何かあるごとに政治に対して不信感を抱かせてしまう原因だと思ってきました。

そこで、1期目の選挙時から、私の政治姿勢(『責任政治』への3つの誓い)の一つとして、『政治資金100%公開』を掲げてきました。今回は紙面の都合上平成20年度のみ報告ですが、選挙取

支報告から過去6年間の政治資金報告は、福田紀彦のホームページ(<http://www.fukuda-norihiko.com/>)で公開をしていますので、ご確認いただくことも可能です。

また、個人の政治資金の他に、所属党派に対して条例に基づく政務調査費が交付され、事務所費、人件費の大部分を充当させて頂いています。今年から1円からの領収書添付と公開を実現しています。

平成20年度政治資金報告

収入項目	金額	特記事項
平成19年度からの繰越金	¥318,757	
個人からの寄付	¥1,368,000	112名様より
政治団体からの寄付	¥200,000	民主党神奈川県総支部連合会
勉強会・講演会などの会費収入	¥139,601	さくら祭り出店・物品販売の収入、銀行利息などとして
総収入	¥2,026,358	
支出項目	金額	特記事項
人件費	¥164,372	職員報酬
光熱費	¥9,964	電気・ガス・水道の使用料など
備品・消耗品費	¥217,816	新聞・文具・OA機器類など
事務所費	¥139,699	事務所の家賃・火災保険・電話使用料・切手購入代など
組織活動費	¥665,966	交通費・各種会合費 行事費など
機関誌の発行事業費	¥304,085	Kanagawa Times作成費、郵送費
調査研究費	¥4,074	書籍購入代など
寄付・交付金	¥5,000	
その他の経費	¥25,587	不要品処分費用・振込手数料など
総支出	¥1,536,563	
平成21年度への繰越額	¥489,795	

日々更新中!

日々何をしている? 議員の活動がわかります!!

まるごとホームページ

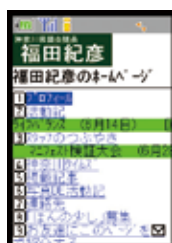
<http://www.fukuda-norihiko.com/>

日頃、議員って何やっているの? という素朴な声から生まれた“活動記”では、日々の議員活動やその時に感じたこと、議会での出来事、驚き、憤りを本音で写真を交えながら綴っています。時々、活動記の更新がおろそかになります、

議員になる前から通算7年続いています。また、これまでの政治資金報告をはじめ、レポートのバックナンバーなど各種資料もアップしています。ぜひ、一度見てみて下さい。また、携帯電話でもご覧になれます。



*福田紀彦のホームページです。



携帯サイトでのアクセスが、PCからのものを超えています。今後も充実して情報発信につとめます。



こちらのQRコードをカメラ付き携帯でバーコード読み込みをすると福田紀彦のホームページにアクセスできます

福田紀彦も応援しています!!



Profile ひだか剛 (ひだかたけし)
 昭和40年11月24日生まれ/巳年 / 射手座/血液型O型/妻・長男・長女の4人家族
 平成2年、早稲田大学卒業 東京海上火災保険(株) 衆議院議員小沢一郎事務所
 平成12年、衆議院議員選挙初当選
 平成15年、衆議院議員2期目当選、平成17年、衆議院選挙惜敗するも77,877票獲得。
 現在、捲土重来を期して元気いっぱい活動中!



前衆議院議員

ひだか剛 たけし

「あなたの生活が第一。」

www.the-hidaka.net

福田紀彦の言いたい放題!

チェンジ! チェンジ!! チェンジ!!!

1993年の夏、大学の夏休みを利用して、現在、知事を務める松沢成文さんの初めての衆議院選挙でボランティアをしました。その選挙で自民党は下野し細川政権が誕生した時は、いよいよ日本も変わるんだという期待に満ちていました。ところが、その後の政治は、政党の離合集散と敵失競争の政治が16年も続いてしまいました。なんと長い時間を費やしたのかという思いと、ようやくここまで来たという気持ちですが、いよいよ、総選挙。“政権選択”の時です!

今度の総選挙の争点は、「税金の使い方を変える」ということに尽きます。先月の県議会では、総額840億円超の補正予算を成立させましたが、中身は政府の緊急経済対策という名目で都道府県にばら撒かれた使い勝手の悪いメニューばかりです。

国から全国一律に用途の基準が決められるため、地域のニーズに合わず、お金は使うが効果が上がらない。本当に馬鹿げています。(怒)皆さんの税金ですよ!!!

私の所属する厚生常任委員会から例を挙げると、介護関係の仕事をされる方の給与を月額1万5千円上げるために、今後2年半の時限で国から県に240億円もお金を出す、そのお金を申請に応じて県から各介護施設業者に配れという話です。給与が上がる話は良い話です。ならば、介護職の安定をはかるためにも、お駄賃のような一時金ではなく、給与水準を決める介護報酬を改定すべきです。(民主党は介護報酬の7%アップ改正を提出済)

私の質疑の中で、介護施設側が将来の介護報酬が不透明では安易に給与は上げられないと、交付金を申請しないことが予測されるという答弁です。

このように根本を正さずして問題の解決はないのです。定額給付金のように、選挙前の大盤振る舞いと言われても仕方がありません。税金の非効率な使い方に終止符を打たなければなりません。マニフェストを読んで、選挙にGO!

民主党かながわクラブ県議団

編集・発行人

神奈川県議会議員

福田紀彦

神奈川県宮前区宮前平1-10-11アオキビル201

☎044-866-2323

メールアドレス

mail@fukuda-norihiko.com



Profile 福田紀彦 (ふくだのりひこ)

昭和47年4月20日生まれ。川崎市立長沢小・中学校卒業後、渡米。米国ファーマン大学卒(政治学)。衆議院議員・松沢成文(現・神奈川県知事)公設第一秘書を経て、平成15年より神奈川県議会議員、現在2期目。厚生常任委員会委員などを務める